
堀切菖蒲園の紹介

葛飾区都市整備部公園課（堀切菖蒲園）

住所：東京都葛飾区立石六丁目9番1号

1 堀切の花菖蒲

堀切の花菖蒲は、古くから江戸名所の一つとして知られ、その景観は春信、広重、豊国、清親の錦絵に、また、「江戸名所図会」やその他の名所案内や紀行文にも紹介されている。

この地に花菖蒲が伝承したのは、文化年間（1804～1817）堀切村の百姓伊左衛門（小高氏）が四季に栽培する草花のうち特に花菖蒲の培養に興味を持ち、しきりに異種を各地に求めたが、当時本所の割下水に住む万年録三郎という旗本から「十二単」をさらに有名な花菖蒲の愛好家松平左金吾（菖翁）から「羽衣」、「立田川」などの品種を貰い受け、その繁殖を図ったのが最初ともいわれている。

かつて、花菖蒲の研究家と知られた理学博士三好学氏は明治36年以来、その研究に専念し、大正10年「花菖蒲図譜」を発表され、さらに同15年「史跡名勝天然記念物」誌上に「堀切花菖蒲」として発表され、昭和8年2月には文部省（現文部科学省）史跡名勝天然記念物保存法により「名勝小高園」として指定を受けた。昔は元祖といわれる小高園のほか武蔵園、堀切園、観花園などの名園があり盛観を極めたが、その後、周囲の環境と数度の水害などで、逐次衰退し、いずれも廃園となり、今日に至った。

2 堀切菖蒲園

現在の堀切菖蒲園は、旧堀切園の一部を東京都が買収し、昭和35年6月から都立の有料公園として公開され、昭和50年4月葛飾区に移管されたものである。無料で公開され、約7,700平方メートルの園内には、約200種6,000株の江戸系古花を中心とした花菖蒲のほか四

季とりどりの草本が植えられ、江戸時代からの由緒ある名所として、その面目を保っている。昭和52年3月に葛飾区文化財（区史跡）に指定された。

毎年6月には、「堀切かつしか菖蒲まつり」が開催され、全国から多くの来園者が訪れている。

また、堀切菖蒲園の隣接地を購入したのをきっかけに、平成27年度実施設計、平成28～29年度工事を予定している。工事期間中についても、「堀切かつしか菖蒲まつり」期間の6月は開園する。

3 日本花菖蒲協会の指導

平成25・26年度の花菖蒲園の花菖蒲については育成状況があまり良くなく、来園者より「花が小さい」、「背丈が低い」などの意見を多く受け、来園者数も減った。これまでの栽培管理の方法について検証を行うとともに、平成26年度には日本花菖蒲協会へ協力を仰ぎ、全国的に発生している「ハナショウブ疫病」が原因であることが判明した。

その対策として、職員向け講座「ハナショウブ疫病の対策」研修会を開催し、育成管理の方法等についての見直しを行ったところ、平成27年度の花菖蒲については来園者の皆様に満足いただけるようになり、「堀切かつしか菖蒲まつり」期間中の来園者数も増えた。

4 終わりに

日本花菖蒲協会の香取先生をはじめ諸先生には、花菖蒲の栽培管理について指導を賜り感謝を申し上げます。

今後、堀切菖蒲園では江戸系古花を中心とした花菖蒲の育成に最善を尽くしますので、日本花菖蒲協会の諸先生には引き続き花菖蒲の栽培管理の指導をお願いいたします。